

平成26年度山の田地区まちづくり集会開催記録（概要）

◎日 時 平成26年9月20日（土）10:00～12:00

◎場 所 北部公民館 視聴覚室

◎出席団体数 17団体

幡生地区自治連合会、山の田自治連合会、大学町自治連合会、武久自治連合会、山の田小学校PTA、下関市PTA連合会、幡生地区連合婦人会、生野校区スポーツ振興会、山の田地区スポーツ推進協議会、北部第1地区民生児童委員協議会、北部第2地区民生児童委員協議会、食生活改善推進協議会山の田地区、高齢社会をよくする下関女性会、更生保護女性会、下関市老人クラブ連合会新北部支部、山の田中学校区青少年健全育成協議会、山の田中学校区コミュニティスクール

◎市出席者 下関市長 中尾友昭

総合政策部部長：三木潤一、総合政策部政策調整監：星出恒夫
総合政策部地域支援課課長補佐：安田成興、主任：齋藤浩三

◎傍聴者 3名

◎次 第

1 開 会	10:00
2 市長講話（私が考えるあらたなまちづくり）	10:00～
3 あらたなまちづくりに関する意見交換	10:15～
4 下関市住民自治によるまちづくり推進計画（素案） 及び全体スケジュールの説明	10:30～
5 推進計画（素案）及びスケジュールに関する意見交換	11:10～
6 閉 会	12:00

◎まちづくり集会開催の目的

住民自治によるまちづくりを推進するため、その基本となるまちづくり推進計画の策定等に関し、広く地域住民の意見を聴取する場として、それぞれの地域において「まちづくり集会」を開催します。併せて、それぞれの地域における住民等のまちづくり活動に対する機運の醸成を図ることを目的としています。

◎まちづくり集会開催

開式のことば
出席者紹介

◎市長講話

私が考えるあらたなまちづくり
～別紙：市長講話の概要参照～



◎あらたなまちづくりに関する意見交換

参加者 市長の具体的な話を聞かせてもらってとても感銘を受けた。地域と学校が連携するコミュニティ・スクールの活動が始まったことは嬉しく思っている。そして、ボランティア活動を行ってきた私たちの意見を汲み上げてもらって、行政に活かしていこうという取り組みはとても嬉しいことだし、良いことだと思っている。具体的な意見ではないが市長講話を聴いての感想。

市長 先日、コミュニティ・スクールの全国大会が本市で開催された。本市は全国的に見てもコミュニティ・スクールへの取組が早い。市内の全小学校、全中学校でこの取組が行われている。子どもたちが地域の中で健全に育ってくれることを嬉しく思っている。このようなことを地域全体に広げていこうとするのがこのまちづくりの取組だ。コミュニティ・スクールの活動へも予算が増えてきた。これからもこのような活動が地域全体に波及していくようによろしく願います。

参加者 最近、新しい団地ができ、自治会の活動が余りスムーズにいったないような気がする。防犯灯と街路灯の区分が分かっていない人が多い。防犯灯は基本的には自治会が管理して電気代も支払うことになっている。そのことを知らない自治会長はその必要は無いと思っている。このような仕組みはどのような経緯でなっているかをよく説明する必要がある。理解すれば、自治会に管理してもらえし、防犯灯の維持ができる。

市長 新たな住民が自治会を理解し、自治会活動に参加してもらえるようにするためには掘り起しが必要だ。他の地区の話として、このようなまちづくりの取組は、市がリードしてやって欲しいとの意見があったが、そうではなく、地域住民自ら努力することが大切だ。そのような過程があつてこそ地域がまとまる。市は財政的支援、人的支援も行うこととしているが、地域の皆さんに意欲がないと前に進まない。法律的には地域を区切って組織を設置し意見を聴く仕組みもあるが、意見を聴くだけであって、それでは地域は元気にならない。

これから取組もうとしているまちづくりは、自分たちで決められ、ある程度の財政支援もある。そうすると参加する方も増え、自ら取組んでもらえるのではないかと思っている。

防犯灯と街路灯については、その区分もあるが、防犯灯は、これから取組もうとするまちづくり組織に対し財政的支援も行っていくので、地域が必要とす

るところには、設置していくことも可能だ。

参加者 連合自治会や単位自治会において、清掃活動や盆踊り行事など行っているが、その枠組みが、今回のまちづくり組織の取組で広がっていくことに大いに期待している。最終的な目的は、住みやすい地域ということだ。

しかしながら、高齢化が進み地域活動に参加しているのは高齢者ばかり、後継者問題もあり若い方の参加が欲しいところだ。若い方が参加してもらうことが課題だ。

市長 これまでのそれぞれの活動については、今まで通りお願いする。今回、取り組もうとしているものは、山の田地区全体での新たな活動の展開を抱いている。高齢社会となっている現在、高齢者の方も地域で活躍していただきたい。若い方の参加については、PTAで活躍している方などとの連携を深めていくことが大切だ。女性の参加も大切だ。女性の方も3割から4割の方が参加していただきたい。是非、若い方や女性の方もこのまちづくりの取組に参加していただきたい。

参加者 山の田自治連合会では、盆踊りや敬老会などを開催してきた。しかしながらここ数年間、単位自治会が自治連合会から脱退していく状況にある。自治連合会が13自治会から10自治会となった。脱退する理由はメリットがないと言っている。そして、盆踊りなどの行事にも参加しない。やり方が悪いのかどうか分からないが、他の地域でもこのような状況はあるのか。また、対策としてはどうしたら良いものだろうか。

市長 山の田自治連行会は、よく活動をしてもらっており感謝している。特に北部公民館の駐車場問題については積極的に取り組んでもらっている。今回、取り組もうとしているまちづくりの組織は、この山の田地区全体の組織であるので、そういった連合会に加入していない自治会であっても、このまちづくり組織には是非参加していただき、一緒に活動をしていただきたい。そういった誰もが参加しやすいまちづくり組織になることを期待している。これから、是非、一緒に良いまちをつくりましょう。

◎下関市住民自治によるまちづくり推進計画（素案）及び全体スケジュールの説明

～別紙：説明概要及び説明資料参照～

◎推進計画（素案）及びスケジュールに関する意見交換

参加者 このまちづくり組織に、青少年健全育成会議やコミュニティ組織が加入して、このまちづくり組織から予算を受けとるようになるのか。

地域サポート職員の動きとしてはどうなるのか。もう少し詳しく教えていただきたい。

人材育成について、下関市立大学が積極的に動いてくれるのか。

最近、自治会に加入しない方が多い。私も勧誘はしているが、その人が言うには、市役所に問い合わせたら、自治会加入は任意だから加入しなくても良いと

言われたそうだ。市としても自治会への加入については、市報などを活用してPRしていただきたい。

市担当 これまで、各団体に交付している補助金をこのまちづくり組織に集約するのではない。既存の各団体への支援はこれまでどおり行う。また、自治会へ委託料として支払っているものもこれまで通りである。

新たなまちづくり組織へ財政的支援をしようとするものは、新たな活動に対して支援していくことを想定している。また、既存の団体の活動を拡充し支援が必要となれば、その活動に対して充当することも考えられる。

地域サポート職員については、まちづくり協議会が開催する会議やイベントなどには当然参加をしていく。また、相談にも応じ必要なアドバイスや支援を行っていく。

下関市立大学の対応については、市立大学には地域協創部もあり、地域活動へのサポートは積極的だ。大学はこの地区にあり、まちづくり組織へも是非参加していただきたい。

自治会への加入については、「絶対に加入しなければならないのか。」と問われたら、「そうではありません。」と答えたのだろうと推測する。

自治会加入はあくまでも任意なので、市が直接加入促進をPRすることは難しいと思うが、自治会に加入いただき、是非、地域活動に参加していこうという啓発については、所管する市民部と協議していきたい。

また、新たなまちづくり組織においても、自治会への加入の啓発に取り組んでいけるのでないかと考える。

参加者 まちづくり協議会の具体的な役割とあるが、要するにまちづくりを進めるために、ネットワーク化をしていこうではないかという話である。自治会など各団体はこれまでどおり個々の活動に取り組んでいくこととなる。個々の団体の課題については、個々の団体で処理することとなる。新たなまちづくり組織については、この地区にある大学や医療機関など各種団体が参加して新たな地域活動をしていこうという話である。最初からお金の話をするとおかしな話となる。

市担当 自治会においても、自分達だけでは解決できない課題などについては、新たなまちづくり組織の中で、ネットワークを図りながら相互補完して、その解決に取り組んでいただきたい。

例えば、放課後子ども教室であっても、人材をもっと多くの方に広げていきたいなどの課題に対しても、このネットワークを活用し相互補完ができるかもしれないというのが新たなまちづくり組織の役割でもある。

参加者 ネットワーク化をすれば色々な問題もでてくるが、そこで解決できることもでてくる。であるから、この山の田地区で横の連携を強くし、取り組んでいかなければならない。お金がなくてもできることは沢山ある。そこからスタートしないと物事は進まない。

設立準備会については、来年度いっぱいには、設立総会していくという計画となっているが、初めのスタート、きっかけはどのような形で、作っていくこと

となるのか。

市担当 設立準備会の立ち上げについては、今日参加いただいた方々が中心となって進めていくことを想定している。市としても相談等を受け、助言等を行っていく。設立マニュアル等を作成し、説明していくこととしている。

市担当 先ほど、市長からも申しましたが、この新たなまちづくり組織、まちづくり活動には、女性の視点も重要と考える。是非、女性の方にも新たなまちづくり組織に積極的に参加していただきたいと望んでいる。

市担当 山の田地区は、中学校区域と一致しているので、今後、設立準備を進めていく上でも、新たなまちづくり組織の一つの地区として考えてよいか。

参加者 これまで山の田地区は、向洋地区とも連携した活動もあったが、向洋地区のまちづくり集会では、地区について、山の田地区や文洋地区との連携の意見はなかったのか。

市担当 向洋地区においても、地区について意見を伺ったが、特に他の地区と連携していくという意見はなかった。文洋地区のまちづくり集会はこれからである。向洋地区については、向洋地区として進めていくとの考えであった。

参加者 勤労者婦人センターの調理室の利用について、北部公民館は、勤労者婦人センターと併設されている。公民館利用の申込み方法については、公民館の登録団体は、年間を通じ利用の申込みが可能だが、勤労者婦人センターについては、1月前でなければ利用の申込みを受け付けてくれない。年間を通じての利用の予約ができない状態だ。団体の活動としては、市と連携して行っている活動であるし、年間を通じて活動計画をたて実施している。このようなことで、利用できない日も生じており、大変困っている。地域の活動がスムーズに取り組みできるように、勤労者婦人センターの利用申込みの方法を再検討していただきたい。

参加者 安倍首相もおっしゃっているが、女性の視点が大事だ。東北大震災においても女性の支援が重要であったと言われている。まちづくりを進めるうえにおいても女性が携わることが多い。それと、若い人にも参加していただくことが大切だ。若い人の意見も吸い上げていただければ、より良いまちづくりとなるのではないか。

市担当 公民館は、基本的には地区公民館となるので、登録団体制であって、公民館運営協議会において、年間の利用について協議され、使用されているところ。勤労者婦人センターは、市内に1施設しかなく、利用者の範囲とすれば、市内全域の方ということになる。よって、申込者は市内全域の方から申込みがされていることとなっている。基本的には、勤労者婦人センターは、市内の勤労婦人の方が利用されるという施設であるので、利用に制約がかからないように1月前でないとは受け付けないということにしていると考え。勤労者婦人センターの利用の申込み方法については、所管部にこのような意見があることは伝える。

市担当 先ほど、若い人も参加していただきたい、参加できるまちづくり組織が大切だというお話があったが、若い人を受け入れる組織体制を構築することも大切で

ある。また、高齢者の方についても、高齢社会ということでもあり、高齢者が活躍する場、生きがいつくりの場としても、是非、まちづくり活動に積極的に参加していただきたい。

参加者 市のPTA連合会としても、PTAの役員がOBとなっても、連携でき活躍できる仕組みを考えていきたいと思う。